

先端応用外科学

(旧・外科学第二講座)

松原 久裕

佐藤外科教室（続）

昭和42年（1967）より昭和52年（1977）までの佐藤外科教室の歴史については既刊の「千葉大学医学部百周年記念誌」に述べられているのでその詳細は省略する。

百周年記念誌から35年，第二外科学教室は昭和52年に千葉大学医学部附属病院長に就任された佐藤博教授のもと更に発展してきた。昭和53年（1978）には新病院（現，にし棟）が落成し病院長再任，同年第11回日本消化器外科学会総会会長，昭和57年（1982）に第82回日本外科学会総会会長，昭和58年（1983）に第22回日本消化器集団検診学会会長を引き受けられ，昭和60年（1985）名誉教授に就任される。

中山教授以後，教室を引き継ぎ，教育・診療・研究において教室の研究室の磐石の指導体制を築いてきた佐藤教授は惜しまれながら，平成3年（1991）御逝去される。

中山，佐藤両教授の下，他大学の教授に就任された，鍋谷欣市教授（現杏林大学医学部名誉教授）が第30回，羽生富士夫教授（現，東京女子医科大学名誉教授）が第33回日本消化器外科学会総会会長を引き受け，高橋英世教授（現，千葉大学小児外科学教室名誉教授）が第26回日本小児外科学会総会会長を引き受けられ御活躍されている。

中山恒明先生においては，外科学を大きく開拓，発展させたその業績をたたえられ昭和57年（1982）に勲一等瑞宝章叙勲という輝かしい名誉を受けられ教室員の更なる励みになったことは言うまでもない。

磯野外科教室

昭和60年（1985），磯野可一教授の時代を迎えることとなる。

磯野外科教室の期間は平成10年（1998），千葉大学名誉教授就任までの13年間である。

磯野教授は1964年に入局され，教室在籍期間は34年間，千葉大学在任期間は学長8年間の任期を終了する2006年までの42年間となり，実に多大なる功績を残した。

磯野教授略歴

1. 1958年3月 千葉大学医学部卒業
2. 1959年3月 国立東京第一病院においてインターン終了
3. 1963年3月 千葉大学大学院医学研究科外科系（博士課程）終了（医学博士）
4. 1967年6月 千葉大学医学部附属病院第二外科助手
5. 1973年3月 千葉大学医学部附属病院第二外科講師
6. 1976年9月 アメリカ合衆国，メイヨ・クリニックに留学
7. 1985年8月 千葉大学医学部外科学第二講座教授
8. 1993年4月 千葉大学医学部附属病院院長
9. 1993年4月 全国国立大学病院長会議，常任委員長
10. 1998年3月 千葉大学定年退職，千葉大学名誉教授
11. 1998年8月 千葉大学学長

賞

- 1972年 日本胸部外科学会優秀口演
- 1987年 成人病研究助成
- 1998年 日本医師会医学賞
- 2000年 第六回中山恒明賞受賞
- 2008年 瑞宝重光章 叙勲

主催学会

- 第2回小腸移植研究会
- 第7回肝移植研究会
- 第34回手術手技研究会
- 第44回食道疾患研究会
- 第5回国際肥満外科シンポジウム
- 第740回外科集団会
- 第9回肥満治療研究会
- 第19回臓器保存研究会
- 夏期シネフォーラム

第2章 医学研究院・医学部、附属病院の歩み

第222回日本消化器病学会関東支部例会
第2回日本癌病態治療研究会
第24回創傷治癒研究会
第96回日本外科学会総会
第68回胃癌・第46回大腸癌合同研究会
第19回癌局所療法研究会

主な所属学会

日本外科学会会長・理事・監事・名誉会員・評議員
日本癌治療学会常任理事・理事・評議員
日本胸部外科学会評議員
日本大腸肛門病学会評議員
日本消化器外科学会評議員
日本臨床外科学会評議員
手術手技研究会幹事・世話人・常任世話人
日本気管食道科学会常任理事・理事・評議員
肝移植研究会世話人
日本肥満学会評議員
日本手術医学会評議員
日本移植学会評議員
日本外科代謝栄養学会評議員
日本静脈・経腸栄養研究会世話人
日本外科系連合学会評議員
日本臨床生理学会評議員
肥満・栄養障害研究会会長
膵管胆道合流異常研究会世話人
日本血管外科学会評議員・特別会員
日本胃癌学会名誉会員
大病癌研究会世話人・名誉会員
日本食道疾患研究会会長
日本癌病態治療研究会会長
乳癌学会評議員
国際外科学会日本部会理事
癌とリンパ節研究会世話人
胃外科研究会世話人
癌局所療法研究会世話人
日本胆道外科研究会世話人
在宅経腸栄養研究会名誉会員
食道静脈瘤硬化療法研究会常任世話人
癌免疫外科研究会世話人
膵移植研究会世話人
日本門脈圧亢進症研究会常任世話人
創傷治癒研究会名誉会員
千葉胸・腹腔鏡視下手術研究会代表世話人
日本消化器癌発生学会世話人
日本BRM学会世話人

生命倫理学会名誉会員

Membership for International Society

ISDE (International Society for Diseases of the Esophagus)
IGSC (International Gastro-Surgical Club)
ACS (American College of Surgeons)
ASA (Asian Surgical Association)
CICS (Collegium International Chirurgiae Digestivae)
ISAO (International Society for Artificial organs)
IGCA (International Gastric Cancer Association)
Seminars in Surgical Oncology (Editor)
International Journal of Clinical Oncology (Editor)

科学研究費による研究

厚生省がん研究助成金による研究
1985年、総合研究 転移に対する積極的治療
分担・肝転移に対する切除+塞栓、化学療法
1987年、指定研究 固形がんの集学的治療の研究
分担・食道癌の集学的治療の研究
総合研究 がん転移の制圧に関する研究
分担・肝転移制圧のための集学的治療
1988年、指定研究 固形がんの集学的治療の研究
分担・食道癌の集学的治療の研究
1992年、計画研究 HLA遺伝子検索によるがんの
宿主要因及び予防対策の研究
分担・がんの前癌病変のHLA検索
1994年、計画研究 HLA/TNF/TCR V β 遺伝子解
析による新しいがん予防対策の研究
分担・消化器がんの宿主要因に関する研究

厚生省がん克服新10ヵ年戦略プロジェクト研究
1987～1993年、ヒトがん遺伝子に関する研究
課題・がんの発生と進展に関与する遺伝子およびそ
の産物の解析と臨床応用
1994～1995年、発がんの分子機構に関する研究
課題・ヒトがんの発生ならびに転移を抑制する遺伝
子の解析
文部省 総合・一般研究 34題

そ の 他

- 厚生省
医師国家試験委員幹事

医療技術参与

医療関係者審議会委員（臨床研修部会）

高度先進医療審議会専門家会議委員（副座長）

• 文部省

医師の卒後臨床研修に関する4者協議会（座長）

• 科学技術庁

重粒子線治療ネットワーク会議評価部会（部会長）

重粒子線治療ネットワーク会議計画部会消化管分科会（会長）

重粒子線治療消化管臨床研究班（班長）

大学セミナー・ハウス評議員

文部省共済組合運営審議会委員

メディア教育開発センター評議員

教職員生涯福祉財団役員

かずさディー・エヌ・エー研究所理事

医学教育振興財団理事

磯野外科教室業績

（昭和60年～平成9年 1985～1997）

内 訳

1. 食道：①食道疾患全般の診断 75篇 ②食道疾患全般の治療 135篇 ③食道穿孔 3篇 ④アカラシア 8篇 ⑤逆流性食道炎 12篇 ⑥その他 65篇。計300篇。
2. 胃十二指腸：①胃十二指腸疾患全般の治療 3篇 ②治療 15篇 ③その他 8篇。計26篇。
3. 腸：①大腸疾患全般の診断 5篇 ②治療 4篇 ③大腸癌肝転移の診断・治療 9篇 ④炎症性腸疾患全般 1篇 ⑤その他 9篇。計28篇。
4. 肝・胆・膵：①肝細胞癌の診断・治療 37篇 ②転移性肝腫瘍 4篇 ③肝機能 10篇 ④胆管系疾患の診断・治療 20篇 ⑤膵疾患の診断・治療 29篇 ⑥脾・その他 12篇。計112篇。
5. 内視鏡：①特殊検査 34篇 ②治療 36篇。計70篇。
6. 特殊画像診断：①MRI 7篇 ②PET 16篇 ③その他 4篇。計27篇。
7. 外科栄養・代謝：①栄養全般 34篇 ②肥満 20篇 計54篇。
8. 移植：①腎移植 31篇 ②肝移植 17篇 ③膵移植 2篇 ④移植免疫 57篇 その他 16篇。計123篇。
9. 人工透析：①透析全般 47篇 ②救急・集中治

療 17篇 ③肝不全 7篇 ④外科侵襲 16篇

⑤その他 1篇。計88篇。

10. 遺伝子：①診断 12篇 ②治療 10篇。計22篇。

11. 外科感染症：計20篇。

12. 乳腺：①乳腺疾患全般 6篇。

13. 分子生物学：①全般 7篇。

14. 腫瘍免疫：33篇。

15. 外科全般：77篇。

（磯野外科における業績は993篇となる。）

昭和60年，磯野教授を迎えて，外科領域は益々発展の途につく。画像検査や内視鏡関連の機器の発達に伴い，X線画像診断部門，内視鏡治療部門における飛躍的な進歩を来す時代となった。また，肝・胆・膵領域の診断や外科治療および内視鏡診断・治療が急激に進歩し，そのすべての領域において教室員が学会をリードしていくことになる。更にまた研究部門においても分子生物学的分野や遺伝子治療の研究が開発される。

磯野教授は，ますます発展し専門性が高まる各領域において，専門性と外科一般の乖離が進まぬように配慮された診療体制をとり，臓器に固着せずに診療し，その中で専門性を更に磨く方針を採った。研究分野は「病理」，「X線画像」，「内視鏡」，「移植」，「遺伝子」，「生化学」，「透析」と，現体制の基盤を形成してきて，それぞれの領域で卓越した業績が生まれていった。外科診療の中で重症管理に人工透析を応用した治療法が確立され，集中治療部に発展した。平成7年には平澤博之先生が，第二外科から分かれて初代の救急医学講座教授に就任されたことは大きな功績である。

瀬尾，中山，佐藤教授らによって体系づけられてきた第二外科の体制が，磯野教授により完成され，まさに第二外科の基盤が確立された時代である。

磯野教授は対外的にも高い評価を受け，日本外科学会会長や日本食道疾患研究会会長を引き受けられただけでなく，食道癌手術において三領域郭清を導入し治療成績を大きく改善させた功績により平成10年（1998），日本医師会医学賞を受賞された。さらに平成12年（2000），日本癌治療学会において第6回中山恒明賞を受賞された。教授退任後も千葉大学学長として8年間勤められ，押し寄せる大学改革，国立大学法人化という激動の中，大学教育の体制づくりに御尽力された。その功績を讃えられ2008年，瑞宝重光章を叙勲されたことは記憶に新しい。千葉大学全体としても大変な名誉であり，誠に感服する限りである。

第2章 医学研究院・医学部，附属病院の歩み

輝かしい業績を挙げられ益々ご健在であり，今なお御指導を賜る近況を記し稿を終える。

第五代 落合武徳教授

落合武徳教授略歴

1941年11月26日 東京都に出生
1960年3月 私立開成高等学校卒業
1966年3月 千葉大学医学部卒業
1966年4月 東京警察病院にてインターン
1967年4月 千葉大学大学院医学研究院入学
千葉大学第二外科入局
1967年11月 医師免許取得，医籍登録
1971年3月 千葉大学大学院医学研究院修了
医学博士取得
1971年4月 千葉大学医学部附属病院第二外科
医員
1973年4月 千葉県立東金病院外科医長
1973年8月 米国 Naval Medical Center, New
York 大学留学
1975年7月 千葉大学医学部附属病院第二外科
医員
1978年4月 千葉大学医学部附属病院第二外科
助手
1980年4月 英国 Cambridge 大学留学
1985年10月 千葉大学医学部附属病院第二外科
講師
1991年10月 千葉大学医学部外科学第二講座助
教授
1998年10月 千葉大学医学部外科学第二講座教授
2001年4月 千葉大学大学院医学研究院先端応
用外科学教授
2004年4月 国立大学法人千葉大学大学院医学
研究院先端応用外科学教授
2007年3月 国立大学法人千葉大学大学院医学
研究院先端応用外科学教授退任

研 究 歴

1971年3月 千葉大学大学院医学研究院にて「抗リ
ンパ球抗体の免疫抑制に関する研究」
で，医学博士取得
1973年8月 米国 Naval Medical Center 留学。「臓
器移植における抗リンパ球グロブリン
の拒絶反応抑制効果に関する研究」を
行う。
1974年10月 米国 New York 大学留学。Downstate

Medical Center 外科で臓器移植の臨床
に携わる。

1975年7月 帰国。消化器外科と腎移植に携わる。
「胃癌におけるBCG-CWSを用いた癌
の免疫療法の研究」，「臓器移植におけ
る拒絶反応抑制効果の研究」を開始。
1978年4月 文部省「がん特別研究」研究費獲得
（3年間）
1980年4月 英国Cambridge大学留学。外科で肝移
植を研修。
1980年8月 帰国。サイクロスポリンの研究開始。
1982年1月 本邦初の腎移植におけるサイクロスポ
リンの臨床試験実施。
1984年9月 FK506の臓器移植実験開始。
1986年5月 The American Society of Transplant
Surgeons 会員。
1987年9月 International Organ Transplant Forum
において「臓器移植におけるFK506の
研究」で第1位優秀論文賞を受賞。

業 績（教授就任以降）

1999年9月 日本移植学会，理事
2000年1月 生体部分肝移植第1例実施。
2000年3月 国内5例目の脳死腎移植実施。
2000年4月 日本外科学会，理事
2000年4月 文部科学省高度先進医療開発経費「癌
の遺伝子診断システムと国産技術によ
る遺伝子治療臨床研究システムの開
発」を獲得。癌遺伝子治療臨床の基盤
整備（3年間）
2000年10月 Fellow of American College of Surgeons
(FACS)
2000年10月 千葉癌化学療法研究会設立，代表世話
人
2000年12月 食道癌遺伝子治療第1例実施。
2001年1月 第34回日本臨床腎移植研究会，主催。
2001年9月 第1回国際シンポジウム「Cancer Gene
Therapy」開催。
2001年11月 千葉胃癌研究会，代表世話人
2002年1月 NPO法人「先端医療フォーラム」設
立，理事長。
2002年3月 第14回日本小腸移植研究会，主催。
2003年3月 第778回外科集談会，主催。
2003年4月 文部科学省21世紀COEプログラムで
「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治
療拠点形成」プロジェクトが大型研究

費を獲得（5年間）。

2003年6月 日本食道学会，理事

2003年6月 第24回癌免疫外科研究会，第25回日本
癌局所療法研究会ジョイントミーティ
ング，主催。

2003年12月 日本創傷治療学会，主催。

2004年2月 第1回21世紀COEシンポジウム「消化
器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点
形成」開催。

2004年11月 第2回国際シンポジウム「Cancer Gene
Therapy」開催。

2004年12月 21世紀COE国際パネルシンポジウム
「Treatment of Esophageal Cancer」
開催。

2005年1月 第2回21世紀COEシンポジウム「消化
器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点
形成」開催。

2005年3月 千葉大腸疾患研究会設立，代表世話人

2005年6月 房総臨床腫瘍研究グループ（BCOG）
において「大腸癌に対する術後補助化
学療法の探索的臨床研究」の研究代表
者

2006年2月 千葉ヘルニア研究会設立，代表世話人

2006年9月 第42回日本移植学会総会，会長

2006年10月 「2006 Japan Conference of Interna-
tional Society of Cell and Gene Therapy
of Cancer」開催。

平成10年（1998年），落合武徳教授が教室を主宰する。落合教授を迎えてから診療，研究においてさまざまな変革があり，充実していった。

まず最初に千葉大学および医学部の変革があった。平成13年（2001年）千葉大学医学部は千葉大学大学院医学研究院となり，第二外科学は先端応用外科学となった。平成16年（2004年）全国で国立大学の法人化が行われ，千葉大学は国立大学法人千葉大学となった。またこの時期に医学部附属病院においては診療科再編が行われ，第二外科は食道・胃腸外科と乳腺・甲状腺外科となった。

診療面では平成10年（1998年），落合教授就任時は消化器外科と乳腺甲状腺外科の診療を行っていた。消化器外科領域においては癌に対する診断および治療を中心に展開していった。平成12年（2000年）には食道癌に対する第1例目となる遺伝子治療を実施し，平成17年（2005年）までに10例に行った。平成15年（2003年）に文部科学省の21世紀COEプログラムで「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治

療拠点形成」プロジェクトが採択され，食道癌に対して重粒子線治療を含めた集学的治療を行っていった。平成16年（2004年）の診療科再編で消化器外科は食道，胃，大腸の消化管外科領域を第二外科が，肝胆膵外科を第一外科が担当することとなった。これ以降は消化管癌に対する診療を継続していった。

落合教授は教授就任までに移植に関する多くの診療と研究を行っており，就任後も腎移植の診療を行った。平成9年（1997年）に臓器移植法が施行され，平成12年（2000年）国内5例目の脳死腎移植を実施した。同年，生体部分肝移植第1例を実施し，平成15年（2003年）までに8例に生体部分肝移植を行った。平成16年（2004年）に診療科再編が行われ，肝移植は以後，第一外科に委ねることとなった。

落合教授は患者あるいは市民の啓蒙を図り，理解を深めてもらうため，公開市民講座を平成13年（2001年）から平成17年（2005年）までに計7回開催した。

2001年7月 特別講演会「医師とナースのセーフ
ティー・マネジメント「職業感染」と
「法律」から医療従事者の安全を考え
る」

2002年11月 平成14年度 NPO法人市民講座「女性
による女性のための医学講座 ビュー
ティフルライフをさがそう」

2003年9月 平成15年度 NPO法人市民講座「胃癌
になったらどうしよう 診断と治療の
最新情報」

2004年10月 平成16年度 NPO法人市民講座「開か
れつつある医療～医療の透明性と
は～」

2005年11月 平成17年度 NPO法人市民講座「がん
治療最前線 がんなんて知ってしまえ
ば恐くない」

2006年9月 NPO法人市民フォーラム
「移植——生命のおくりもの——」

2007年1月 千葉大学／放射線医学総合研究所公開
市民講座「消化器扁平上皮癌に対する
最先端多戦略治療拠点形成」

研究面では食道癌，胃癌，大腸癌の診断と治療を中心にさまざまな研究が進められていった。X線・内視鏡による深達度診断，内視鏡による粘膜下層切開剥離術（ESD），腹腔鏡下手術，胃癌におけるsentinel node navigation surgery，術前術後の補助化学療法，等，さまざまな内容が展開していった。平成12年（2000年）文部科学省高度先進医療開発経

第2章 医学研究院・医学部、附属病院の歩み

費「癌の遺伝子診断システムと国産技術による遺伝子治療臨床研究システムの開発」を獲得し、癌遺伝子治療臨床の基盤整備が行われた。これにより平成17年（2005年）までに食道癌に対して遺伝子治療10例が行われた。平成15年（2003年）に文部科学省の21世紀COEプログラムで「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点形成」プロジェクトが採択され、食道癌に対する重粒子線治療を含めた集学的治療とこれに関わる研究が行われた。

また平成11年（1999年）から平成19年（2007年）までに187篇の論文が作成された。

平成13年（2001年）から平成16年（2004年）に消化器癌の外科治療を中心に4回のフォーラムを開催した。

2001年1月 第1回フォーラム「新世紀の消化器癌外科治療 食道癌，肝門部胆管癌」

2001年9月 第2回フォーラム「International Symposium of Cancer Gene Therapy」

2002年1月 第3回フォーラム「新世紀の消化器癌外科治療 胃癌，肝癌」

2004年1月 第4回フォーラム「新世紀の消化器癌外科治療 大腸癌と炎症性腸疾患」

落合教授在任中，平成15年（2003年）神津照雄が千葉大学医学部附属病院光学診療部教授に，山田英夫が東邦大学医学部附属佐倉病院内視鏡治療センター教授に，平成17年（2005年）林秀樹が千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター手術・生体機能支援機器研究部門教授に，平成18年（2006年）幸田圭史が帝京大学ちば総合医療センター外科教授に，平成19年（2007年）浅野武秀が帝京大学医学部外科教授にそれぞれ就任した。

平成19年（2007年）落合教授在任の最後に「落合

武徳教授業績集」が編集，発行された。

平成20年名誉教授になられる。

第六代 松原久裕教授

松原久裕教授略歴

1960年2月8日 東京都に出生

1978年3月 私立開成高等学校卒業

1984年3月 千葉大学医学部卒業

1991年3月 千葉大学大学院医学研究科博士課程修了

1996年8月 文部教官千葉大学助手医学部附属病院（第二外科）

2000年1月 文部省在外研究員（University of California, San Diego 及び Johns Hopkins University外科）

2002年5月 文部科学教官千葉大学助手大学院医学研究院（先端応用外科学）

2002年7月 文部科学教官千葉大学講師大学院医学研究院（先端応用外科学）

2003年6月 文部科学省研究振興局 学術調査官併任

2007年10月 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学教授

平成19年（2007年），松原久裕教授が教室を主宰することとなった。

落合教授在任中に准教授になった岡住慎一は平成20年（2008年）東邦大学医療センター佐倉病院外科教授となった。同年，吉田雅博が国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授に就任した。

（まつばら ひさひろ）